

---

# 2015年3月期第2四半期決算説明会資料

2014/10/23

株式会社 日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 久田 真佐男

執行役常務 宇野 俊一

## 2015年3月期第2四半期 決算説明会資料

1. 2015年3月期第2四半期累計期間 決算概要
2. 2015年3月期 経営戦略と進捗状況
3. 2015年3月期 業績予想
4. 参考:データ集

---

# 1. 2015年3月期第2四半期累計期間 決算概要

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。  
(e)は、前回予想(2014年7月公表値)

# 2015年3月期第2四半期累計期間決算(ハイライト)

(億円)

	当期実績	前年同期比		前回予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	3,135	+228	+8%	△15	△0%
営業利益	223	+159	+253%	+51	+29%
経常利益	216	+150	+225%	+44	+26%
当期利益	151	+115	+321%	+34	+29%
一株利益	109円94銭	+83円84銭		+24円87銭	
一株配当	20円00銭	+10円00銭		+5円00銭	
FCF	+100	+73		+50	

・前回予想(2014年7月公表値)

## 売上高・営業利益 偏差説明(2014年7月1Q決算発表時比較)

売上高 ( 3,150億円 → 3,135億円     $\Delta$ 15億円 )

■産業・ITシステム： 携帯電話(米国市場)の新モデル立上げ遅れ等により19億円減少

営業利益 ( 172億円 → 223億円    +51億円 )

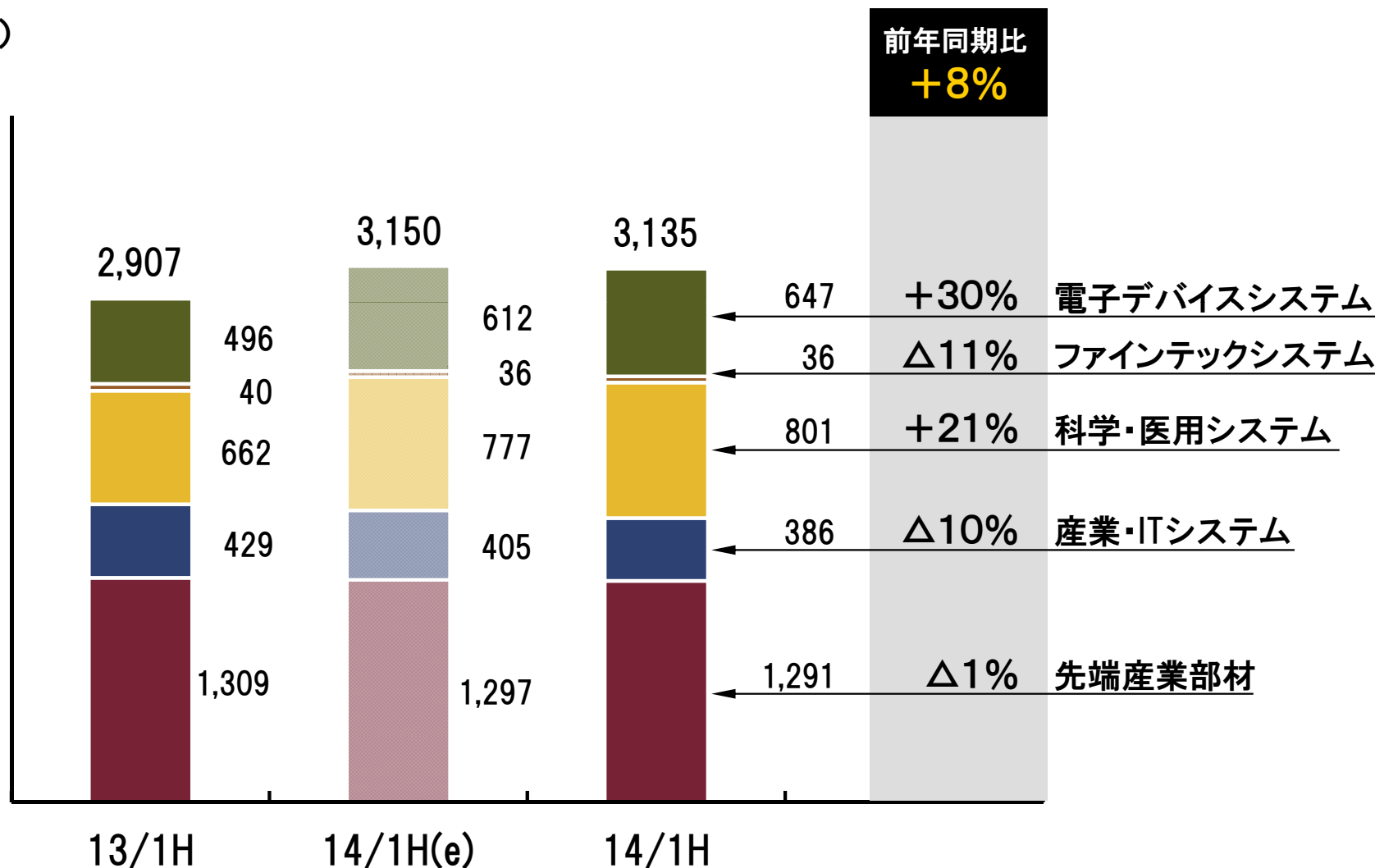
■電子デバイスシステム： 大手主要顧客向けプロセス製造装置が好調に推移したこと等により24億円増加

■科学・医用システム： 医用分析装置の新興国市場向け販売、および米国市場向けパッケージ販売が拡大したこと等により15億円増加

# 2015年3月期第2四半期累計期間決算(売上高)

## 売上高

(億円)

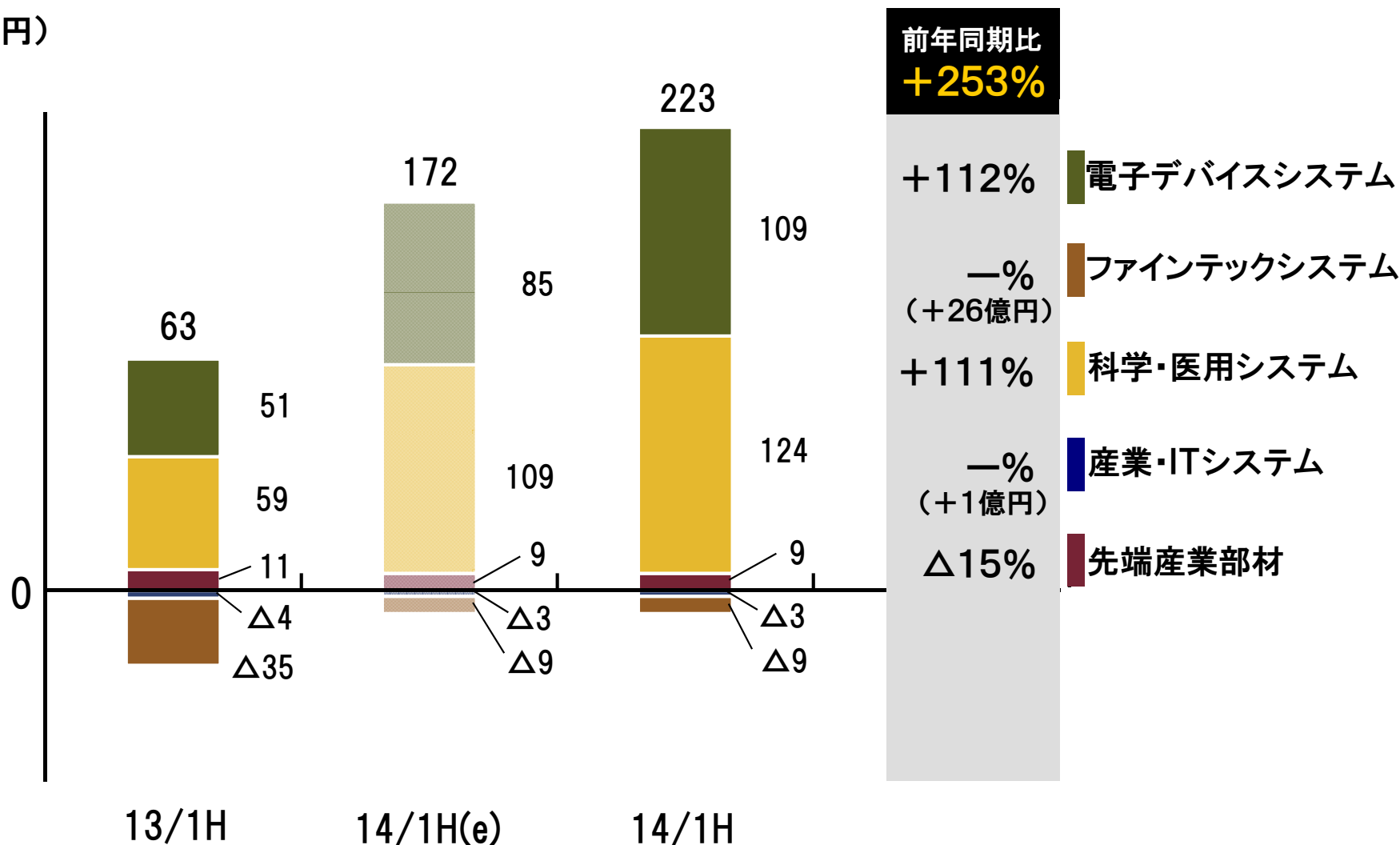


(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

# 2015年3月期第2四半期累計期間決算(営業利益)

## 営業利益

(億円)



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

# 2015年3月期第2四半期累計期間決算(貸借対照表[要約])

2014年9月末 (億円)

			14/3末比				14/3末比
<b>流動資産</b>		<b>3,835</b>	<b>+65</b>	<b>流動負債</b>		<b>1,626</b>	<b>△83</b>
現預金、関係会社預け金	1,426	+79		支払手形および買掛金	1,060	+3	
受取手形および売掛金	1,255	△95		その他	566	△86	
たな卸資産	853	+102		<b>固定負債</b>		<b>507</b>	<b>△4</b>
その他	301	△20		退職給付に係る負債	491	△3	
<b>固定資産</b>		<b>1,187</b>	<b>+8</b>	その他	16	△1	
有形固定資産	758	+6		<b>純資産</b>		<b>2,890</b>	<b>+160</b>
無形固定資産	125	△5		株主資本	2,891	+124	
投資その他の資産	305	+7		その他の包括利益 累計額合計	△8	+35	
				少数株主持分	6	+1	
<b>資産合計</b>		<b>5,022</b>	<b>+73</b>	<b>負債および純資産合計</b>		<b>5,022</b>	<b>+73</b>

・一株当たり純資産 2,096円58銭(14/3末比 +115円58銭)



# 2015年3月期第2四半期累計期間決算

(キャッシュ・フロー計算書〔要約〕)

(億円)

	14/1H		14/1H
営業活動によるキャッシュ・フロー	+120	財務活動によるキャッシュ・フロー	△27
税引前利益	+210	配当金の支払	△28
減価償却費	+52	その他	+0
運転資金	+9	換算差額	+11
法人税等支払額	△83		
その他	△67		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20		
有価証券の取得・売却	+9		
固定資産の取得・売却	△61		
その他	+32		
フリー・キャッシュ・フロー	+100		
			14/1H
		現金および現金同等物	
		期首残高	1,336
		増減額	+84
		期末残高	1,420

---

## 2. 経営戦略と進捗状況

## 2020年に向けた長期経営戦略:CS11 (Corporate Strategy 2011 : 2011年策定)

企業ビジョン

ハイテク・ソリューション事業におけるグローバルトップを目指す

長期経営戦略:CS11 最先端・最前線の事業創造企業としてお客様と共に先頭を走る

## CS11具現化のための施策

1. 市場環境の変化に対応し、CS11の4ターゲット分野を3事業ドメイン(バイオ・ヘルスケア、社会・産業インフラ\*、先端産業システム)に括り直し、投資・リソースを傾斜配分
2. 不採算事業の改革を行い、グローバル成長戦略を加速

\*「社会インフラ」から「社会・産業インフラ」に変更



ハイテク・ソリューション提供

コア・コンピタンス  
事業創造力

グローバル営業・  
調達力

(商事機能)

技術開発・製造・  
サービス力

(メーカー機能)

バイオ・  
ヘルスケア

## 最注力分野として 重点投資

- 既存事業拡大、新分野・新事業積極展開  
体外診断事業、バイオ関連事業、  
ライフインフォマティクス

社会・産業  
インフラ

## 当社コアコンピタンス として強化

- 基盤ソリューションの更なる活用  
社会・産業を支える科学システム・商事事業、  
再生可能エネルギー等狭義の社会インフラ事業

先端産業  
システム

## 選択と集中による 収益性改善

- 最先端・成長領域に特化  
注力：半導体評価装置事業・プロセス製造装置事業  
撤退：チップマウンタ事業

## 最注力分野として重点投資

### 既存事業拡大、新分野・新事業積極展開

#### ▶ 主力事業

- ロシュ社(スイス)と、生化学・免疫自動分析装置を中心とした提携関係をさらに10年間延長することで合意、1978年以来続けてきたシステムコラボレーションビジネス(SCB)を継続強化



大形生化学・免疫自動分析装置「cobas8000」

#### ▶ 新規事業

- 新規体外診断事業(血液凝固、細菌、遺伝子)、次世代DNAシーケンサ技術開発を推進
- 研究用途・産業用途向け携帯型光トポグラフィを日立より取得し、脳科学の産業応用分野に参入

## 当社コアコンピタンスとして強化

### 基盤ソリューションの更なる活用

#### ▶ 科学システム事業

- 日立ハイテクと日立ハイテクサイエンス（旧SIIナノテク）の新規共同開発製品（新型FIB-SEM）を含む7機種を市場投入
- 社会の「安心・安全」を支える高付加価値専用装置を開発（食品分析装置、コメ中Cd検査装置、大気圧SEM）



新規共同開発製品  
新型FIB-SEM  
「NX2000」

#### ▶ 商事事業

- エア・ウォーター・プラントエンジニアリングと北米におけるLNG輸送用タンクコンテナ関連の販売合併会社を設立
- Etrion社（スイス）と共同でメガソーラービジネスに参画、雫石町（岩手県）、水戸市（茨城県）にて建設着手

## 選択と集中による収益性改善

### 最先端・成長領域に特化

#### ▶ 主力事業

- 半導体評価装置事業

- ・「FinFET」「マルチパターンング」  
「3Dデバイス構造」への新製品投入により  
ポートフォリオを拡大中
- ・検査装置は大手顧客の開拓・深耕により実績積上げ中

- プロセス製造装置事業

- ・新プラットフォーム\*採用によるプロセス対応力向上
- ・海外エンジニアリングサイトの活用によるEarly Collaborationの推進

#### ▶ 事業構造改革

- 市場環境の変化等を踏まえ、チップマウンタ事業から撤退  
(2015年3月末予定)



新プラットフォーム採用の  
エッチング装置「9000シリーズ」

\* 生産性の向上と対応するプロセスアプリケーションの  
拡張性を両立した最新鋭のプラットフォーム



## 3. 2015年3月期 業績予想

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。  
(e)は、前回予想(2014年4月公表値)  
(e1)は、今回予想(2014年10月公表値)



# 2015年3月期業績予想(ハイライト)

(億円)

	当年度予想	前年同期比		前回予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	6,500	+109	+2%	△100	△2%
営業利益	385	+81	+27%	+35	+10%
経常利益	377	+66	+21%	+27	+8%
当期利益	256	+76	+42%	±0	±0%
一株利益	186円14銭	+55円03銭		+00円01銭	
一株配当	35円00銭	+5円00銭		+5円00銭	
ROE	9.0%	+2.0%		±0.0%	
FCF	+120	+3		+20	

・前回予想(2014年4月公表値)

・想定レート:1USD=103円、1EUR=130円

## 売上高・営業利益 偏差説明(2014年4月決算発表時比較)

売上高 ( 6,600億円 → 6,500億円      Δ100億円 )

- 科学・医用システム： 医用分析装置の新興国市場向け販売、および米国市場向けパッケージ販売が拡大したこと等により73億円増加
- 産業・ITシステム： 環境・エネルギー関連および携帯電話の販売減等により134億円減少
- 先端産業部材： アセアン向け自動車関連部材および携帯電話用二次電池の販売減等により66億円減少

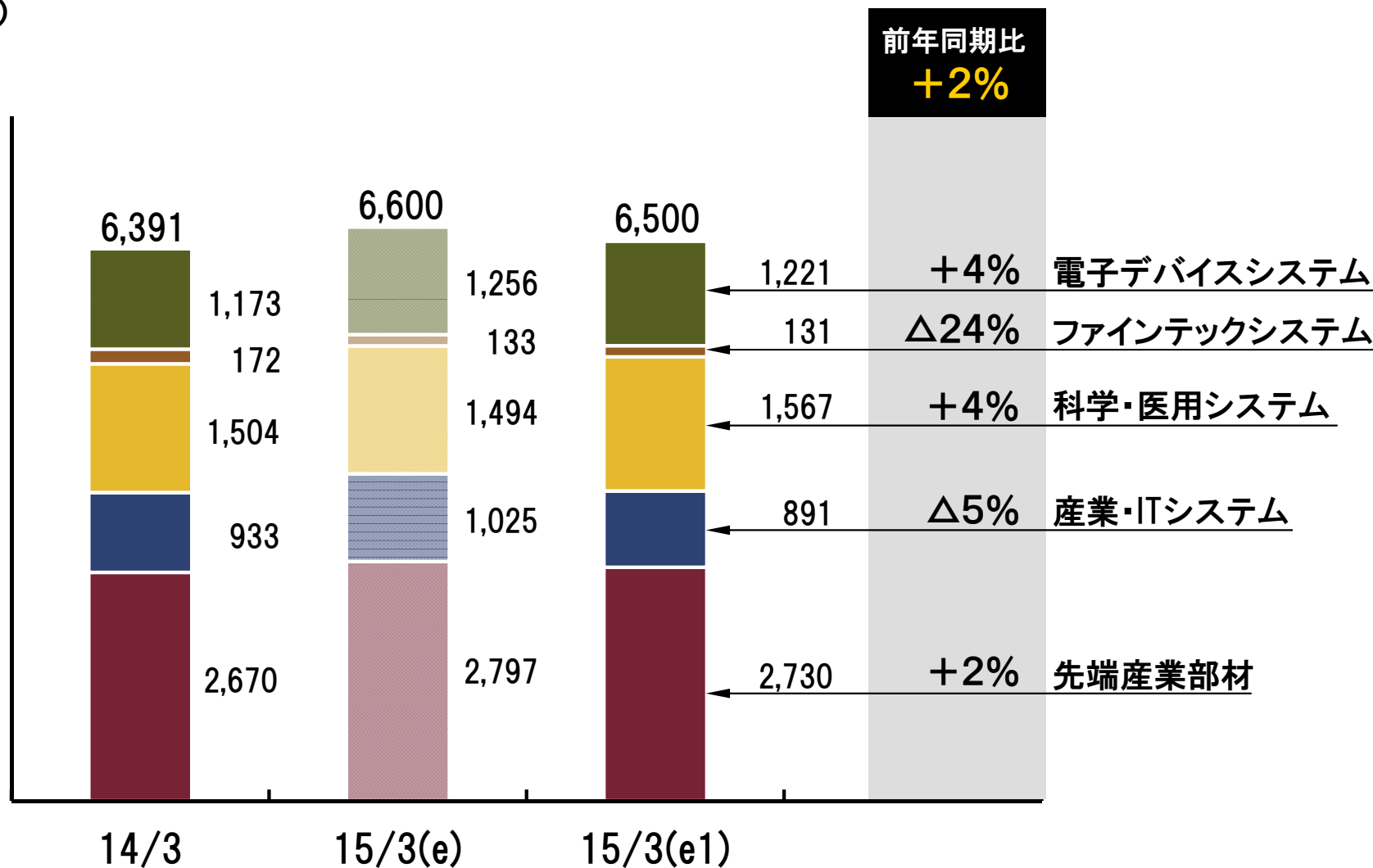
営業利益 ( 350億円 → 385億円      +35億円 )

- 科学・医用システム： 売上高と同様の理由により47億円増加
- 産業・ITシステム： 売上高と同様の理由により9億円減少

# 2015年3月期業績予想(売上高)

## 売上高

(億円)

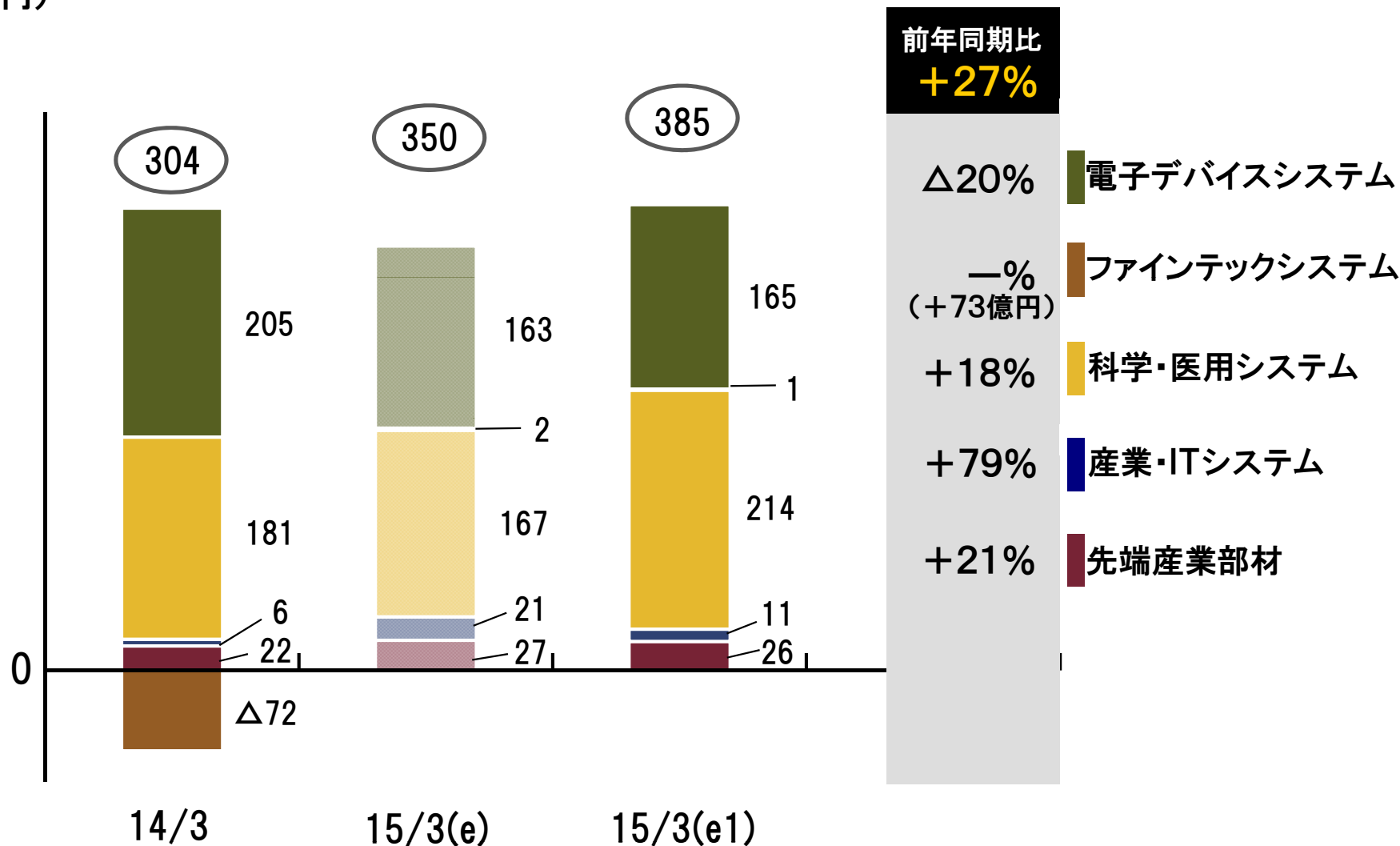


(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

# 2015年3月期業績予想(営業利益)

## 営業利益

(億円)



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

## 事業環境

### 2014年度半導体デバイス市場:前年度比7%の成長

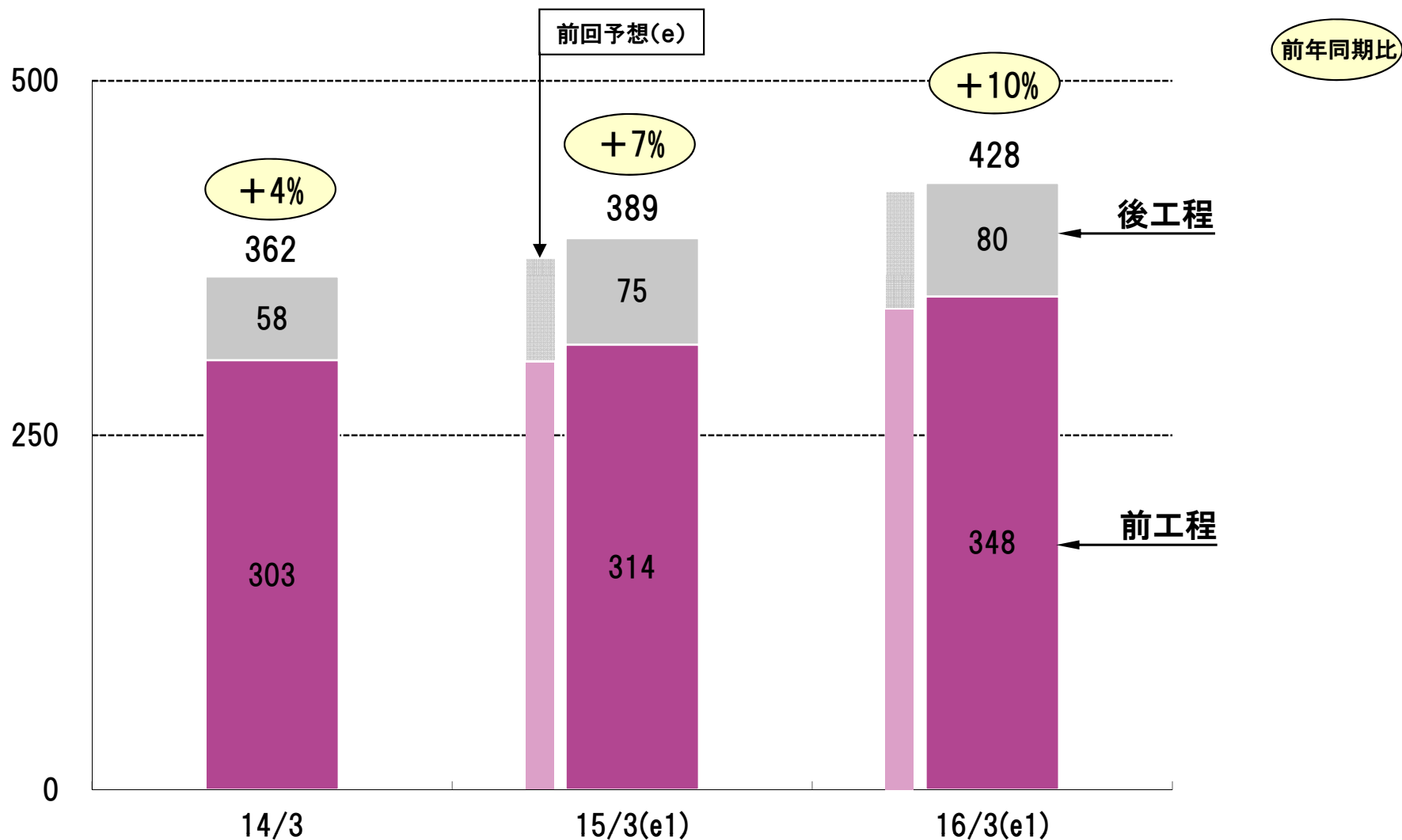
- モバイル関連機器(スマートフォン、タブレット)やSSDの成長により、ASSP、DRAM、NANDが堅調に成長
- MPUは年度前半のWindowsXPからのPC買い替え需要により微増(前年度比+1%)
- DRAMはモバイル向け低消費電力品へのシフトにより増加基調(前年度比+26%)
- NANDはスマートフォン向け搭載容量増で堅調に推移(前年度比+6%)

### 2014年度半導体製造装置市場:前年度比7%の成長

- 年度前半はファウンドリ大手が前年度に引き続き20nm投資を実施。一方で、他のファウンドリも28nm品の需要旺盛による投資を実施
- ファウンドリ大手およびロジックの16/14nm投資は当初予定より遅延したが、一部は年度後半に実施の見通し
- 足元ではメモリーメーカーの投資が活況。DRAMも久々の大型投資が続く

## 半導体製造装置市場

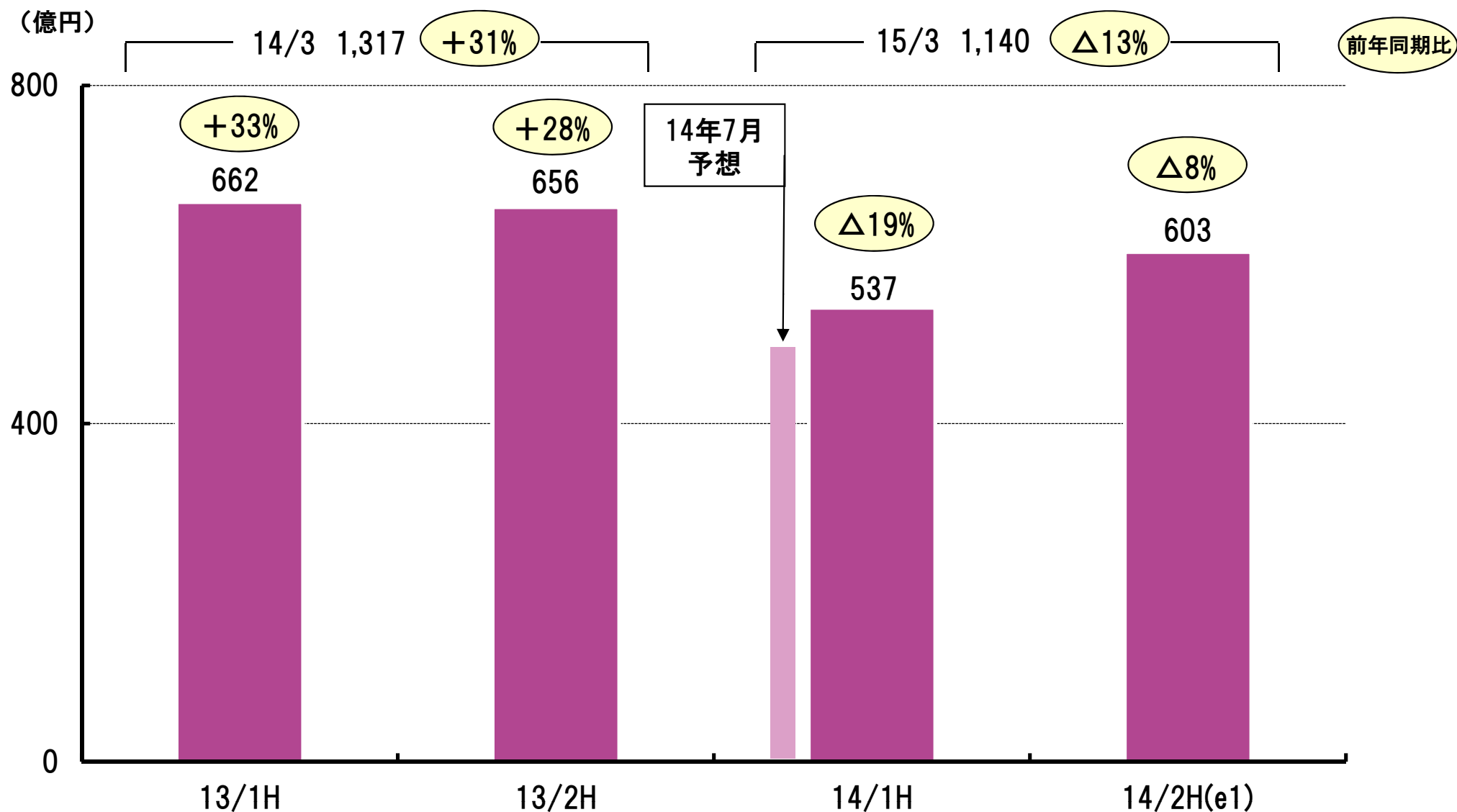
(億USD)



(出所)Gartner(14年10月)データに基づき当社作成

# 2015年3月期業績予想(電子デバイスシステム)③

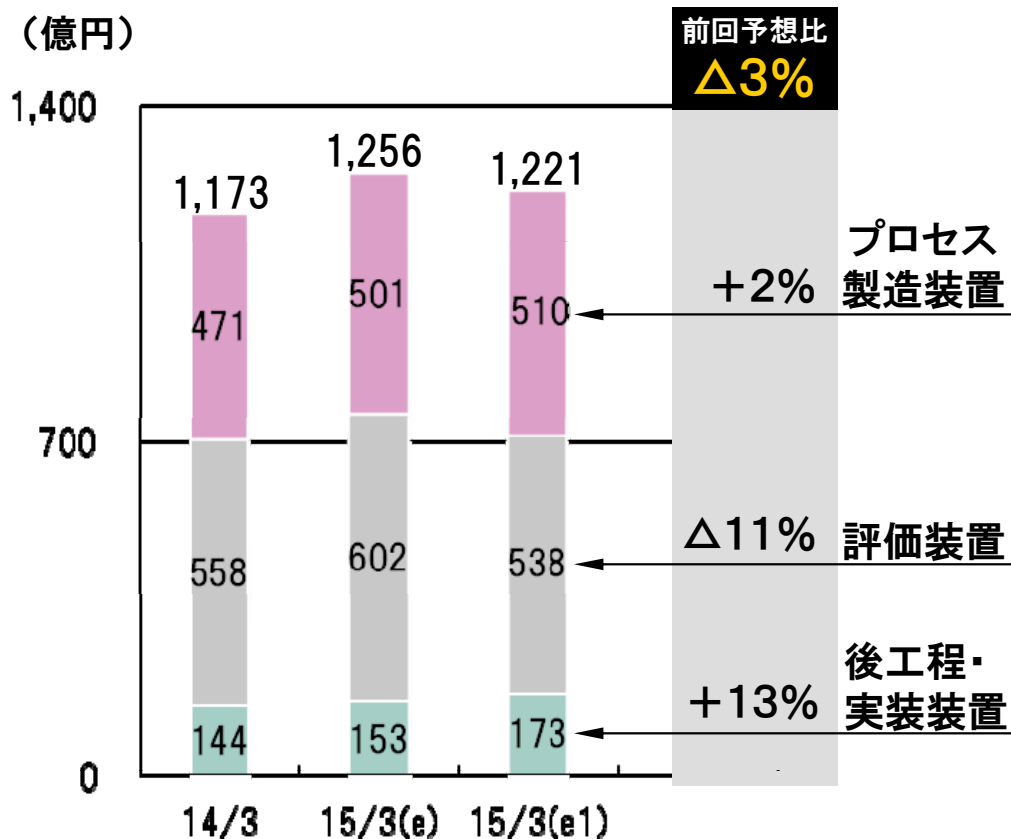
## 受注高の推移



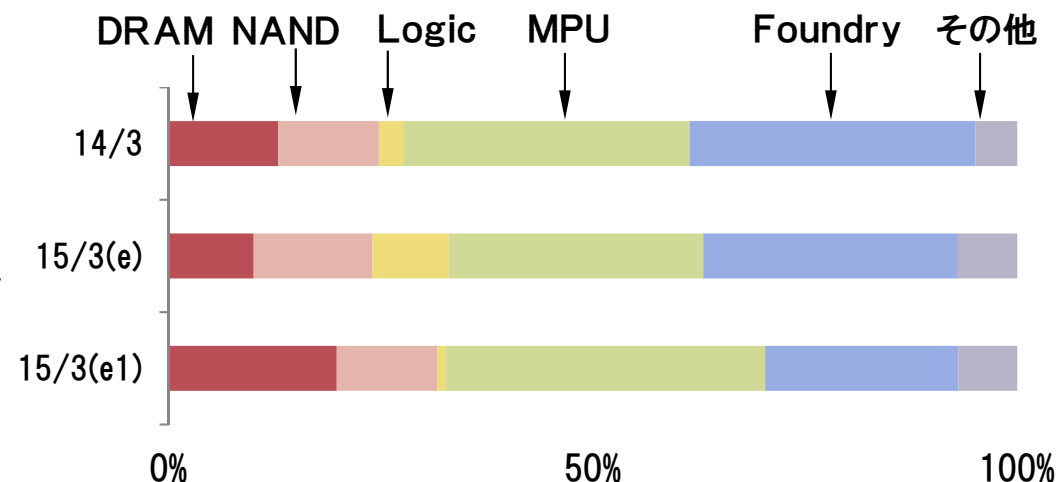
## 今後の取り組み

1. 工程数が増加する多重露光、3Dデバイス、新材料メモリーデバイスに対応したエッチング・計測・検査分野で主要顧客内シェア拡大
2. サービス、システムソリューション事業の拡大

## 主要製品群別 売上高の推移



## 前工程装置 分野別売上高比率



13年度:ファウンドリの大型投資により堅調に推移、NAND関連は投資抑制

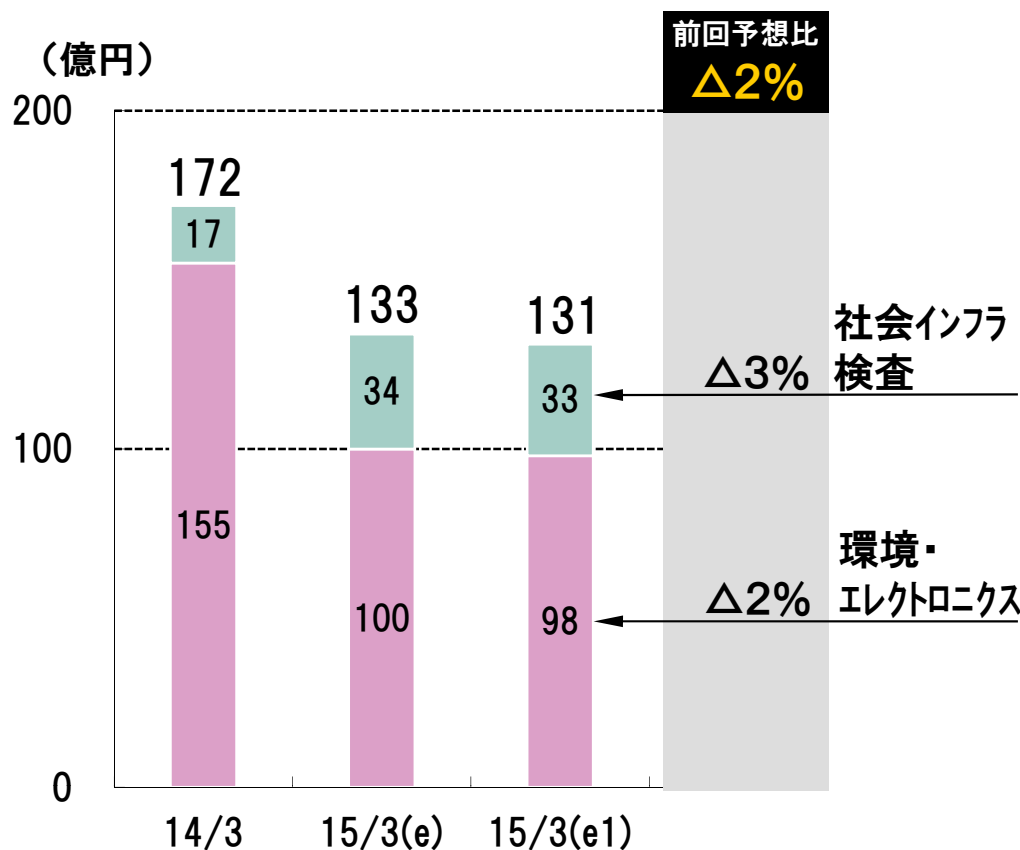
14年度:ロジック、ファウンドリの投資減少、DRAM関連・MPUは投資拡大により売上増



## 今後の取り組み

1. 事業ポートフォリオ転換を加速し、社会インフラ検査、産業インフラ関連の事業規模拡大
2. サービス事業の強化、拡大(FPD・HD関連)

## 主要製品群別売上高の推移



## 具体的アクションプラン

事業ポートフォリオ転換を着実に推進し、  
新規事業の立ち上げを加速

- 社会インフラ検査事業
  - ・鉄道検測関連  
検測装置の製品ラインアップ拡大と海外展開の推進
  - ・送電線検査装置  
早期事業化と事業規模拡大
- 環境・エレクトロニクス事業
  - ・産業インフラ関連  
自動車関連設備の事業拡大と自動化設備事業の高付加価値化
  - ・サービス事業(FPD・HD関連)  
既設設備台数を強みとしたポストセールス展開

## 事業環境

### 科学システム市場

- **電子顕微鏡市場:年率3~4%の成長**
  - ・大学官公庁では、前年度施行の補正予算の影響で需要が減少
  - ・民間市場では、消費税率引き上げによる景気落ち込み懸念から設備投資が遅延傾向  
3Q以降、次世代先端(新エネルギー・新素材)関連分野を中心に徐々に回復
- **分析装置市場:年率2~3%の成長**
  - ・液体クロマトグラフは、質量検出器(MS)との組み合わせによる分析能力向上へのニーズが拡大
  - ・蛍光X線分析装置は、新エネルギー分野での異物分析の需要が拡大

### バイオ・メディカル市場

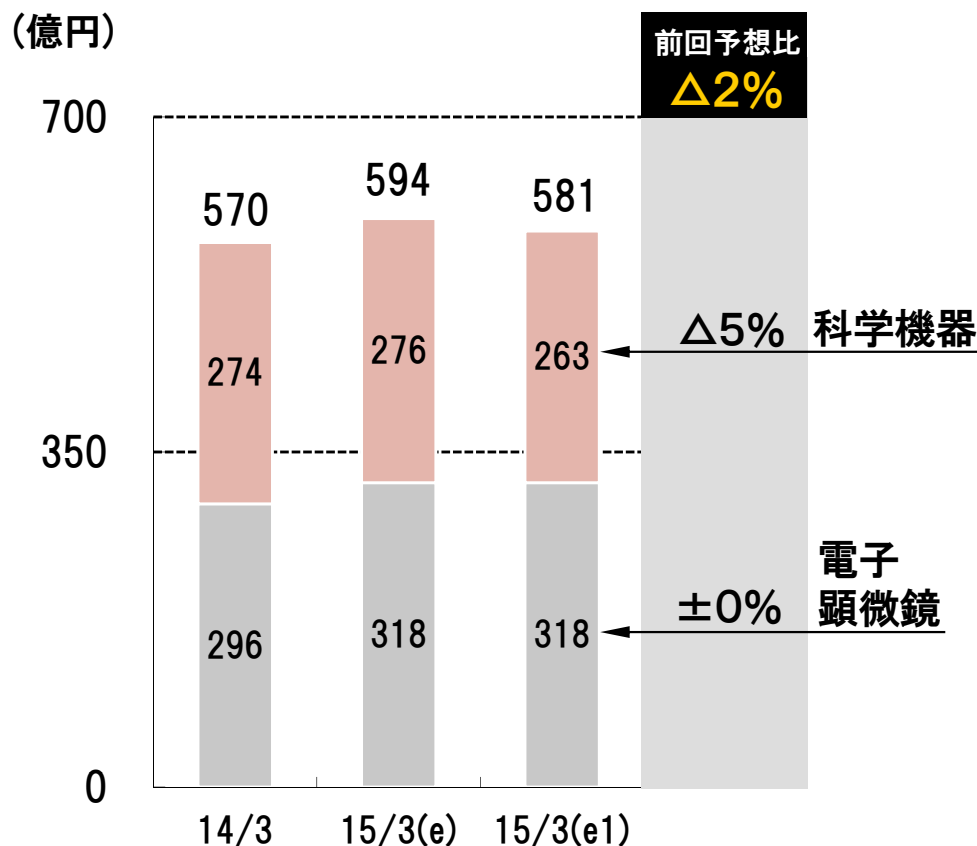
- **生化学・免疫分析市場(試薬+装置):年率4%の成長**
  - ・装置需要は、欧州市場では更新サイクルの長期化が続いているが、米国市場は回復傾向。中国等の新興国市場では、主に免疫装置の需要が増加傾向
- **DNAシーケンサ市場**
  - ・研究分野において米国の研究予算が前年比3%改善
  - ・CE\*シーケンサは、次世代DNAシーケンサのデータ確認用に需要は継続  
法医学個人鑑定分野の更新需要は堅調

\*CE:Capillary Electrophoresis(キャピラリー電気泳動式)

### 今後の取り組み

1. 日立ハイテクサイエンス(HHS)とのシナジーの最大化
2. 環境・新エネルギー・新素材およびライフサイエンス分野への戦略的新製品の拡販

### 売上高の推移



### 具体的アクションプラン

- (HHS)とのシナジーの最大化
  - 【技術・開発シナジー】
    - ・コア技術、製品ポートフォリオ強化
    - ・共同開発の推進 (14/9月 新型FIB-SEMを発売開始)
  - 【販売シナジー】
    - ・両社販売網の活用による、WW販売拡大
- 戦略的新機種の世界投入と拡販 (発売月)
  - ・示差熱重量同時測定装置(6月)
  - ・ショットキー電界放出型SEM(8月)
  - ・卓上顕微鏡(8月)
  - ・FIB-SEM複合装置(9月)
  - ・走査型プローブ顕微鏡(9月)
  - ・高分解能ICP発光分析装置(9月)
  - ・液クロ用MS検出器(9月)

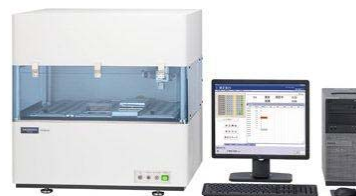
### 分析装置を通じた社会の「安心・安全」への取り組み

高付加価値の専用装置を通じて、社会の基盤となる「安心・安全」へ貢献

専用機	食品分析装置	コメ中Cd検査装置	大気圧SEM
用途	食品特有の自家蛍光の蛍光指紋(3次元蛍光パターン)を測定	コメ等の食品に含まれるカドミウム0.4ppmを、前処理なしで迅速に定量分析	食品、生物等の試料を、水分を含んだ生の状態で、高倍率のSEM像観察が可能
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の種別、産地、起源等の判別</li> <li>・危害物質の推定</li> <li>・良品と不良品の分類</li> <li>・試料の自家蛍光を直接測定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄米をそのまま測定</li> <li>・非含有玄米で基準値以下の測定時間は約2分</li> <li>・簡単測定・評価</li> <li>・自動測定</li> <li>・レポートの自動作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気圧下で試料にダメージを与えず生のまま観察</li> <li>・前処理も不要、操作も簡便で、高スループット</li> <li>・通常のSEMモードでの観察も可能</li> </ul>
顧客	食品メーカー、分析センター等	JA、コメ卸売会社等	食品、製薬、樹脂メーカー等



分光蛍光光度計  
「F-7000」



カドミウム検査装置  
「EA1300VX」

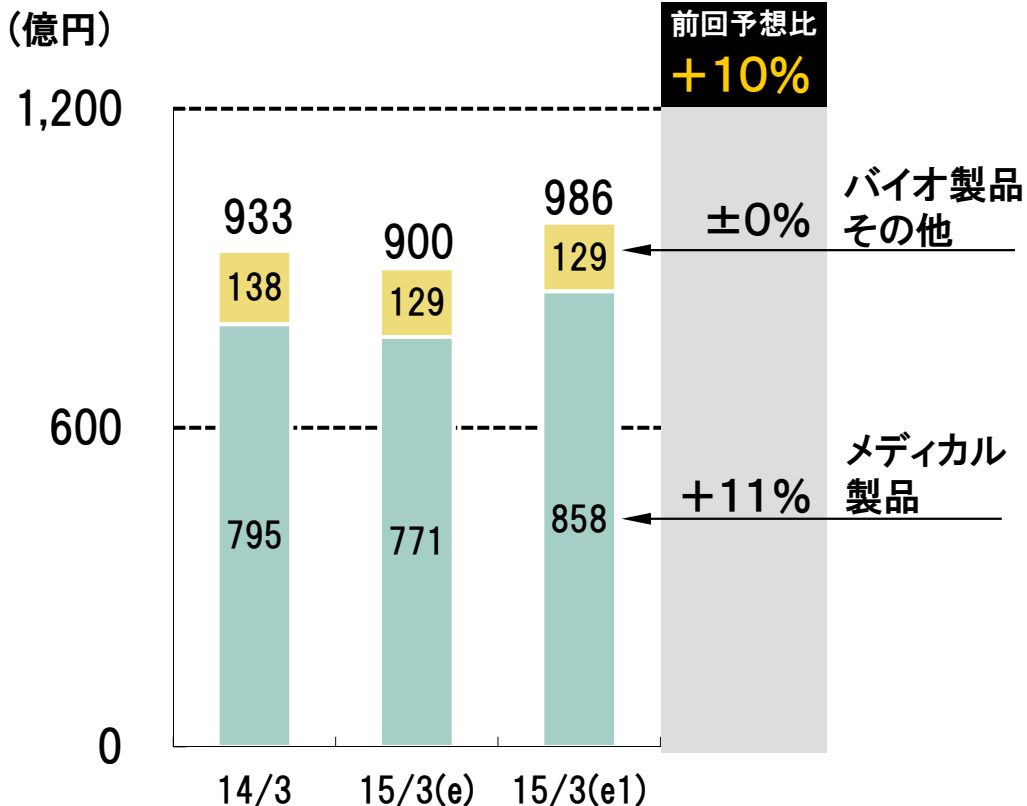


大気圧SEM

### 今後の取り組み

1. 検査室の省力化に有効な検体検査自動化システムを生化学・免疫自動分析装置と組合せ、欧米の大・中規模病院向けに拡販
2. CEシーケンサの法医学個人鑑定における更新需要の確実な取り込みおよび体外診断市場向け次世代DNAシーケンサの開発

### 売上高の推移



### 具体的アクションプラン

- 新製品「3100」生化学自動分析装置の投入による国内小規模施設への販売拡大
- 検体検査自動化システムと大・中形生化学・免疫統合システムのグローバル拡販
- 新興国市場向け免疫自動分析システムの拡販
- CEシーケンサの法医学個人鑑定分野の更新需要獲得
- 体外診断用次世代DNAシーケンサの開発推進

### 臨床検査における多様なニーズに最適なソリューションを提供

#### 専用試薬生化学自動分析装置ラインアップ



Labospect008 大形生化学自動分析装置



Labospect006 中形生化学自動分析装置



Labospect003 小形生化学自動分析装置



汎用試薬対応の  
高コストパフォーマンス

**新製品「3100」  
生化学自動分析装置**

小規模病院の主力機  
中規模病院のバックアップ機

#### 【主な製品特徴】

1. 省スペースながら、400テスト/時の処理能力  
(当社従来機種「7020」比 倍速(以下同比))
2. 最小反応液量を約33%減量
3. 内蔵型操作画面の大型化により、オペレーターの  
視認性・操作性を向上
4. 多様化する検査項目に対応するため試薬架設数を  
最大76ポジションに拡大

## 今後の取り組み

1. 商社機能深化による事業基盤強化
2. 投資促進による新規事業開発の推進
3. 顧客視点でのソリューション提供による収益向上

### (事例1) LNG輸送用タンクコンテナ販売



参考写真

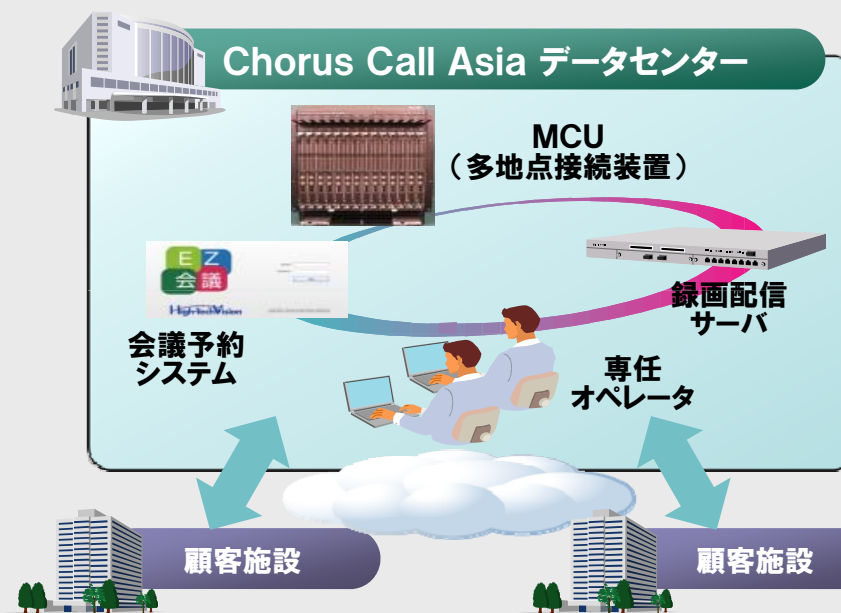
2014年6月、エア・ウォーター・プラントエンジニアリング(株)と合併で、カナダにLNG輸送用タンクコンテナ関連の販売会社を設立

(社名:Hitachi High-Tech AW Cryo, Inc.)

→輸送機器事業の開発強化

**Hitachi High-Tech**

### (事例2)クラウド型多地点ビデオ会議/電話会議サービス



### Chorus Call Asia(株) ※



支払対象

時間貸しサービス  
(コスト削減)



接続端末

ビデオ・音声端末制限なし(顧客資産の活用)



機器

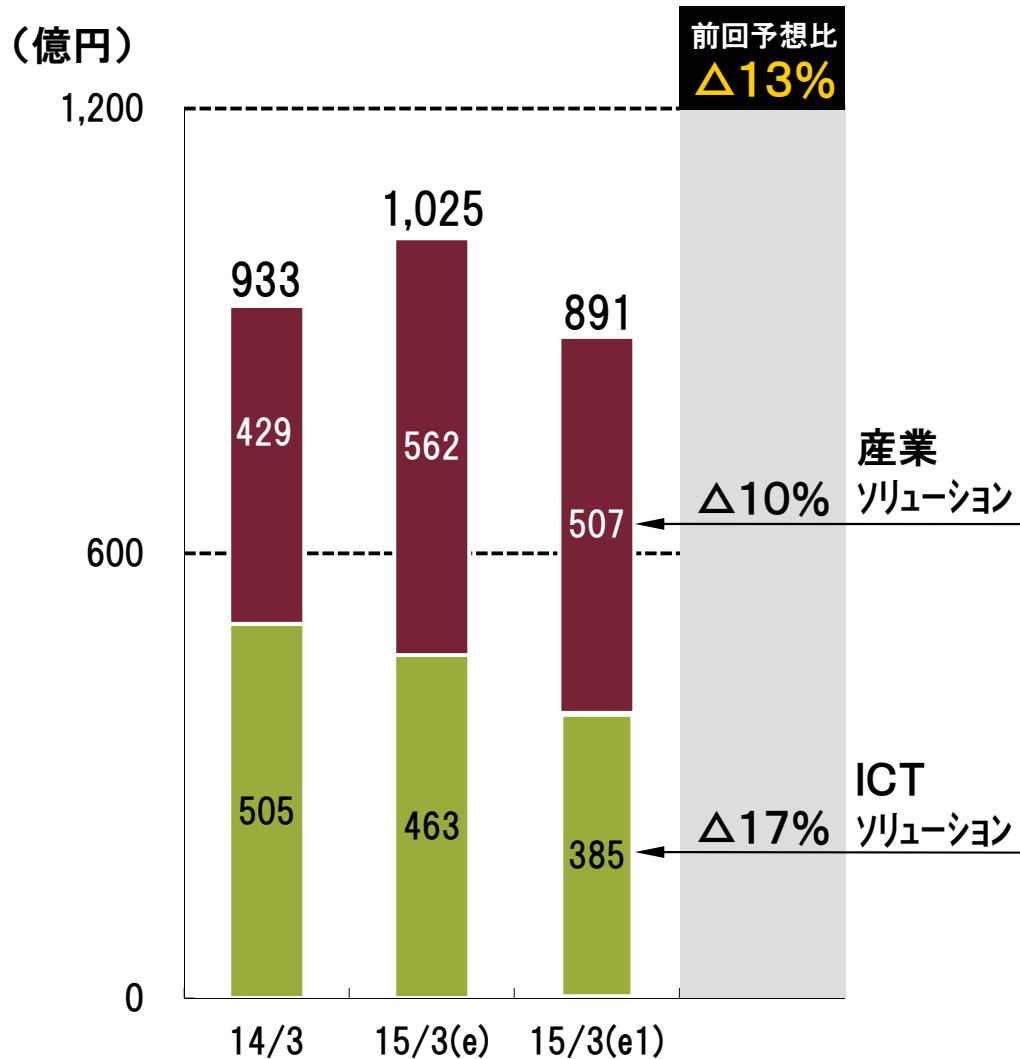
Chorus Call  
(固定資産不要)



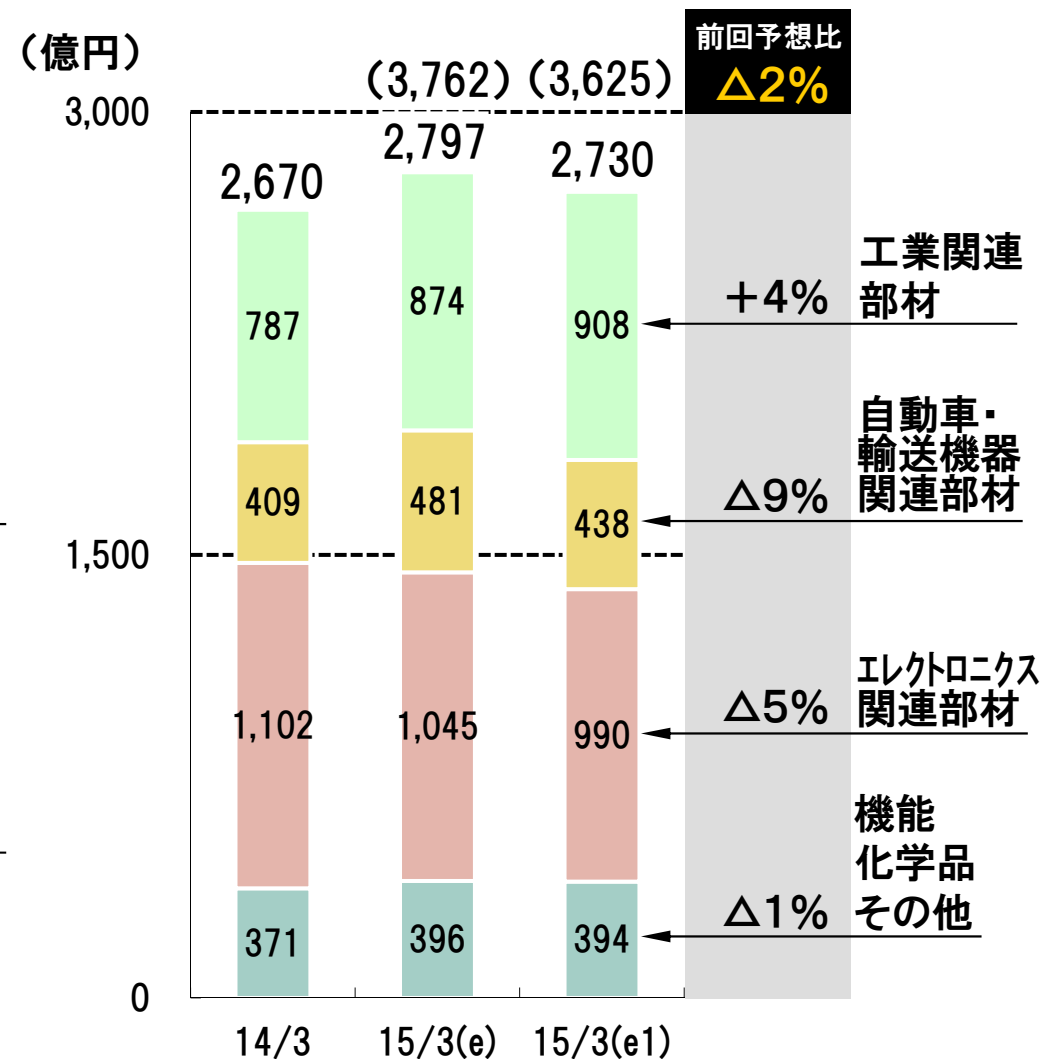
問合わせ

オペレータサービス  
(顧客管理者不要)

## 産業・ITシステム 売上高の推移



## 先端産業部材 売上高の推移



\* ( )は純額表示取引を含む取扱高





## 4. データ集

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。  
(e1)は、今回予想(2014年10月公表値)

# 四半期業績の推移

(億円)

		13年 1Q	13年 2Q	13年 3Q	13年 4Q	14年 1Q	14年 2Q		
売上高 ／ 営業利益	電子デバイスシステム	売上高	213	283	274	403	346	300	
		営業利益	13	39	58	96	81	28	
	ファインテックシステム	売上高	12	28	16	116	12	23	
		営業利益	△20	△15	△18	△20	△6	△4	
	科学・医用システム	売上高	291	371	333	508	388	413	
		営業利益	16	43	37	85	63	61	
	産業・ITシステム	売上高	171	258	183	322	174	213	
		営業利益	△9	4	△6	17	△9	6	
	先端産業部材	売上高	642	667	670	692	644	647	
		営業利益	6	4	8	3	6	4	
	その他・調整額	売上高	△15	△15	△15	△16	△14	△12	
		営業利益	△7	△12	△7	△12	△1	△7	
	合計		売上高	1,315	1,592	1,460	2,024	1,550	1,584
			営業利益	0	63	72	169	135	88
経常利益		5	62	74	171	134	82		
当期利益		△15	51	49	96	92	59		

## ■設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	13/1H	14/1H	前年 同期比	14/3	15/3 (e1)	前年 同期比
設備投資額	117	67	△42%	189	180	△5%
減価償却費	44	52	+18%	94	111	+19%
研究開発費	103	101	△1%	211	214	+2%

(注)設備投資額は取得ベースにて記載

## ■地域別売上高

(億円)

		日本	北米	欧州	アジア	その他	計
					中国大陸		
13/1H	売上高	1,180	423	332	927	397	2,907
	構成比率	41%	15%	11%	32%	14%	100%
14/1H	売上高	1,225	359	514	1,002	412	3,135
	構成比率	39%	12%	16%	32%	13%	100%

(注)「北米・欧州・アジア」に含まれる国および地域を2014年度より一部変更(13/1Hは修正後実績)

# 主要製品群別売上高の状況

(億円)

	13年1Q	13年2Q	13年3Q	13年4Q	14年1Q	14年2Q
<b>電子デバイスシステム</b>	213	283	274	403	346	300
プロセス製造装置	90	110	150	121	160	129
評価装置	82	119	106	250	135	100
後工程・実装装置	41	54	18	33	52	71
<b>ファインテックシステム</b>	12	28	16	116	12	23
環境・エレクトロニクス	12	25	12	106	12	19
社会インフラ検査	0	3	4	10	1	5
<b>科学・医用システム</b>	291	371	333	508	388	413
電子顕微鏡	38	78	62	117	45	93
科学機器	51	65	60	99	46	64
メディカル製品	171	195	178	252	261	222
バイオ製品その他	31	33	34	41	36	34
<b>産業・ITシステム</b>	171	258	183	322	174	213
産業ソリューション	67	99	78	186	71	130
ICTソリューション	105	159	105	136	102	83
<b>先端産業部材</b>	642	667	670	692	644	647
工業関連部材	188	192	201	206	191	193
自動車・輸送機器関連部材	90	98	105	116	103	109
エレクトロニクス関連部材	277	278	266	281	260	248
機能化学品その他	86	98	98	89	90	97

## <資料取り扱い上の注意>

- ・本プレゼンテーションで述べられている決算概要および業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結であり、億円未満を四捨五入しています。
- ・当社が開示する将来の業績見通しや戦略等に関する予想は、開示時点で知りうる情報や合理的と思われる前提をもとに策定しており、さまざまな外部要因による直接的・間接的な影響により、実際の当社の業績等が開示内容と異なる可能性があります。但し、開示内容との間に大きな乖離がある場合は、法令や証券取引所が定める適時開示規則並びに当社の自主的な判断に基づき、その都度開示していきます。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

---

## 2015年3月期第2四半期決算説明会資料

お問合せ先  
CSR本部 CSR・コーポレートコミュニケーション部  
部長 横井 芳人  
TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-5943  
E-mail:yokoi-yoshito@nst.hitachi-hitec.com